

北総版 授業力向上のポイント

必見

～授業の前に確認するはじめての一步～



授業力向上のために、ぜひ確認してほしい
ポイントです。日々の授業で活用してみましょう。

体育科・保健体育科

チェックを
入れてみよう。

1 運動量の確保 ～「説明」より「活動」を優先に～



- 話す時間は短く区切り、活動を優先します。「集合→説明→活動」のサイクルを細かく回すようにしましょう。
- 器械運動などで、1つの器具に多くの児童生徒が集まらない工夫を行います。予備のマット等を活用し、待ち時間を減らす「場づくり」を設定しましょう。
- 上手な児童生徒に手本を見せてもらったり、ICT機器を活用して動画を視聴したりするなど、視覚的な指導を取り入れましょう。

2 運動が苦手な児童生徒への配慮を



- 「運動が得意な児童生徒」に合わせて授業を進めると、苦手な児童生徒は恐怖心や劣等感を抱き、体育嫌いになる可能性があります。全員が達成感を味わえる工夫を授業の中に仕組むことが大切です。
- 器械運動などでは、スモールステップを意識した場の設定を行い、難易度の違う場を複数用意し、児童生徒が自分で選べるようにしましょう。
- 運動の特性を大きく損なわない形で、「ルールの特約化」や「道具の変更」などを取り入れます。

3 実生活と結びつけた「生きた」保健教育を



- 最新の健康課題（スマホ依存、カフェインの過剰摂取など）を導入で扱い、興味をひきつけ、自分事として捉えさせましょう。
- 「もし友達が〇〇な状況だったらどう声をかける？」といったロールプレイングやディスカッションを取り入れ、思考・判断を促す場面を作りましょう。
- 特に「性に関する指導」、「薬物乱用防止教室」や「がんに関する教育」などでは、専門的な知見をもつ養護教諭などと連携しましょう。

体育分野 https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1330884.htm

保健分野 https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1353636.htm（※参考資料 文部科学省 指導資料）